

45mm のゆとりと日々

ー茶室の要素から生まれる移ろい馴染む施設の提案ー

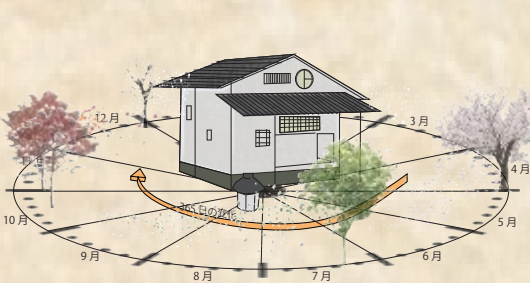


1. 設計趣旨 - 木造と心惹かれる関係 -

1-1. 行くたびに心惹かれるの解釈

日々過ごす空間は一定であり「慣れ」という安心を与え、その中で過ごす日々はどこか物足りなさを感じる。そこで私たちは「行くたびに心惹かれる」＝「**常に変化しながらも安心する空間**」と考えた。日本に生まれて日本で育っている私達は潜在的に茶室という空間に安心という魅力を感じていると考える。そこに移り変わる空間を創り出す。**日光や風、水の流れや人の動きなどにより 365 日の毎日が変わっていく空間を提案する。**それらで構成されたオフィスおよび商業施設は人々に刺激を与え生活に馴染んでいく。茶室という空間に対する潜在的な安心の元に新たな発見や体験ができるそんな施設に多くの人が集まってくる。

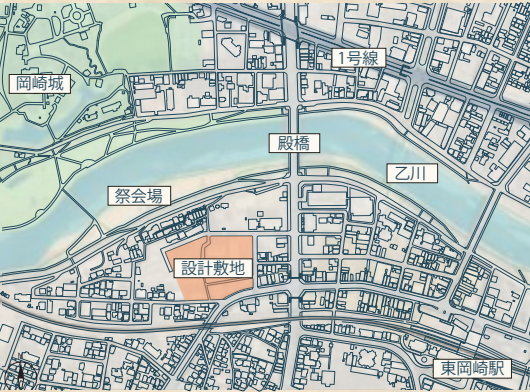
1-2. 茶室と過ごす移ろいの日々の進化



茶室は日本の木造建築の中でも歴史深く、多くの種類が存在している。日本人は「**なんだかいい空間**」と感じアイデンティティを持っている。主な用途としては客人のおもてなしや、地域の人との交流などで使われていた。そして多くの自然要素を室内へと取り込み快適な空間も生み出していた。そこで日々ここに訪れることにより、せわしない日常で気づけなかった季節の変化や人とのふれあいなどを感じさせる。**茶室の要素を再構築し茶室という木造の空間を現代に向け進化させる。**

2. 計画敷地 - 歴史と木材のまち愛知県岡崎市 -

2-1. 計画敷地と周辺 - 木材の利用促進 -



■計画敷地の課題

愛知県東岡崎駅周辺は交通の利便性が高く、再開発が進み多くの働く人が利用している。また、県内では豊田市に次ぐ間伐材保有量があるがあまり利用されておらず**間伐材の利用を促進する必要がある。**

■計画敷地と周辺について

敷地の周辺には乙川が流れており、近くには岡崎城など歴史的な街並みが形成されている。日常的には働く人などが中心となり生活しているがお祭りなどの開催により観光客が来訪するなど**利用者は日々変化している**

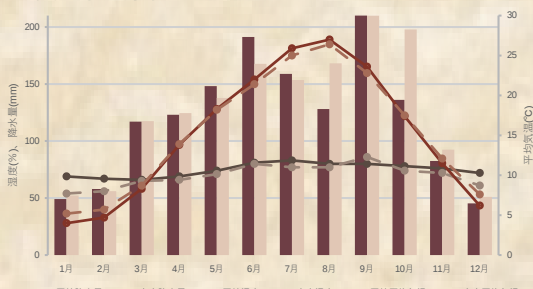
2-2. 敷地の読み解き - 歴史と環境 -

■歴史的な街並み



城下町や街道、松並木や町家が残されている。しかし近年再開発が進み、歴史的な街並みが薄れている。そこで**変化しながらも歴史を重んじた建築**が必要と考える。

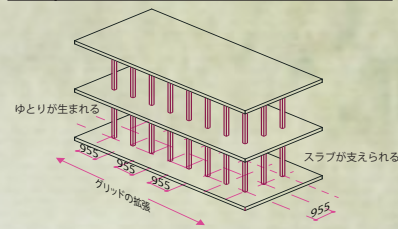
■環境的な背景



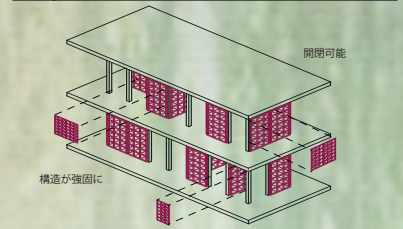
主要都市と比べると岡崎市は気温も高く、降水量も比較的多いことが分かる。**温熱環境や湿度環境も考慮して建築デザインを構築していく。**

0. デザインコンセプト

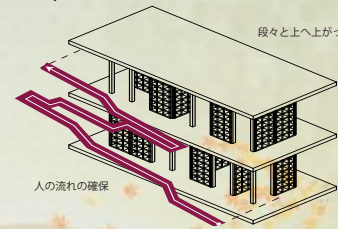
Step1. グリッドの拡張



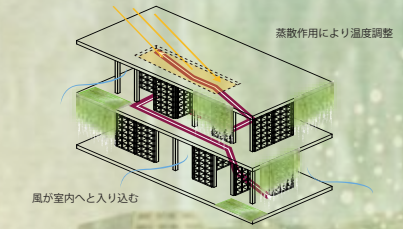
Step 2. 部戸の挿入



Step3. 道の挿入



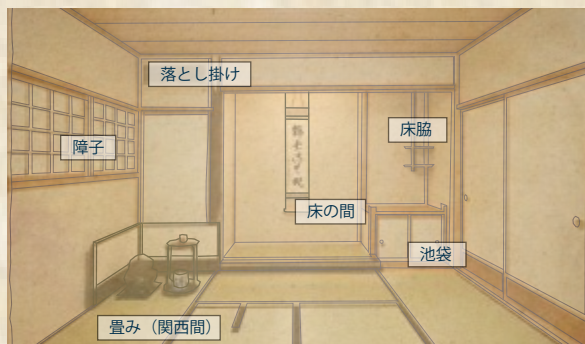
Step4. 自然の挿入



3. 提案 - 茶室から生まれる新たな 2 つの価値 -

3-1. 茶室の古くからの価値と変化

■商業としての価値



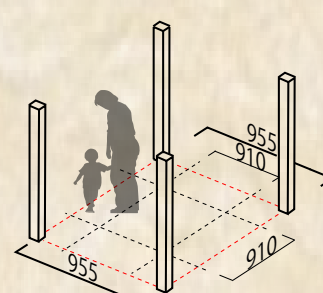
■環境としての価値



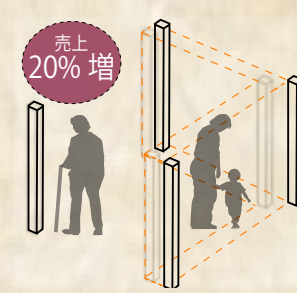
日本で古くから木造で作られた茶室には多くの役割がありそれに伴い様々な特徴を兼ね備えている。そこで私たちは**商業としての価値と環境としての価値**を見出す。茶室の要素を組み込み空間は進化していく。

3-2. スパンの変化 - 45mm のゆとりから生まれる商業的な価値 -

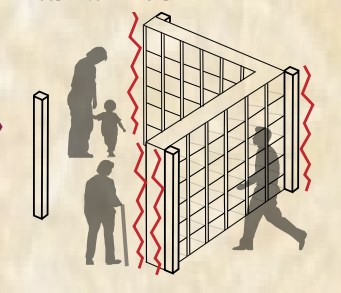
1. スパンの拡張



2. レンダブル比の拡張



3. 耐震性の向上



既存の 910mm のスパンに疑いをもつ。茶室で使われていた関西間を採用することで新たな木造としての価値に挑戦する。

45mm のゆとりに部戸を入れ込み陳列棚として利用する。平面的なものから立面まで解釈を広げレンダブル比を拡張する。

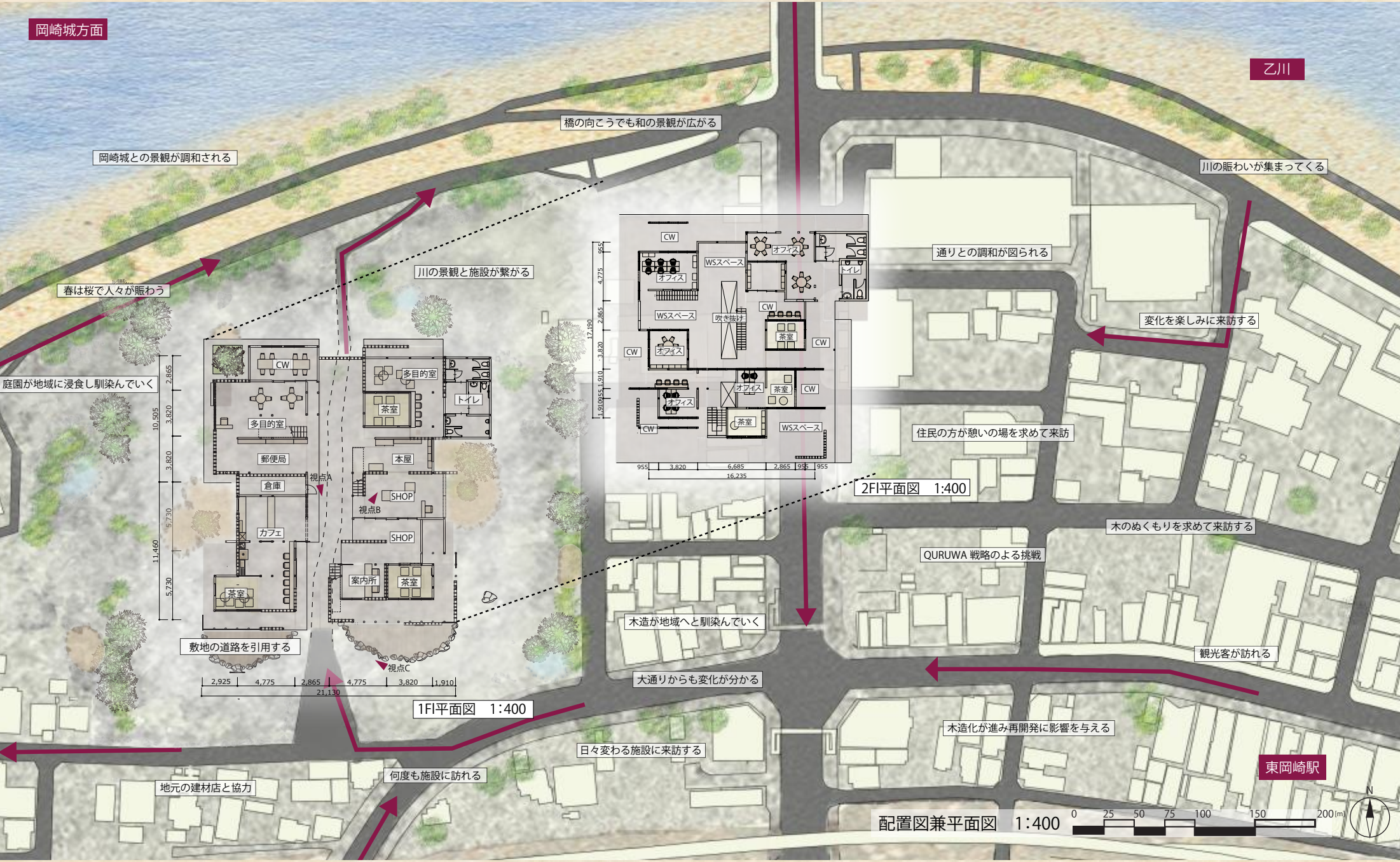
部戸を入れ込むことで耐震性が向上する。商業やオフィスとしての価値を創出するとともに今後の災害に対策する。

3-3. 環境装置 - ゆとりに入り込む茶室の要素 -

要素	①ゆとりと囲炉裏の木材保全	②ゆとりと木材の長期利用	③ゆとりと庭の温度調整	④ゆとりと低い天井で空気循環
将来	将来	将来	自然	自然
要素による影響	囲炉裏の火から木材の天敵である湿気を防ぎ、虫を排除する。防湿にもなる。	基礎の上に空間を作り、空気を通することで 910 ピッチの木材より長期利用が可能。	植物の性質を利用する。蒸散作用による温度低下や日光の照り返し軽減に期待。	天井を低くし、空気循環をしやすい。環境コストの軽減に期待。
ゆとりへの要素の挿入	土壁により湿度や温度管理ができ、室内を快適に保つ。	和紙を使用した障子が「開く」「閉じる」の中間を担い室内を調光する。	下地窓から土壁などの弱り具合などを判断する。また、空気も循環させる。	部戸により人が空間を構築する。それに伴い光や空気なども調整する。

私たちは茶室の要素を再構築し環境装置に当てはめた。環境を「自然」「人」「将来」の 3 つに着目し木造空間の可能性を検討した。茶室の「**なんだかいい空間**」という感性を取り入れながらも茶室でしか見出せない心惹かれながらも何十年も維持できる仕組みを生み出す。新たな価値を創出し行くたびに心惹かれる空間を構築する。

4. 配置図兼平面図 - 周辺から読み解く木造としての役割と、周辺に与える茶室の影響 -



5. ペルソナと心惹かれる空間 - それぞれの使われ方による日々の変化と体験 -

■ 親子 [職業] 専業主婦	■ 学生 [職業] 大学生	■ 高齢者 [職業] 無職	■ 若者 [職業] 公務員	■ 子ども [職業] 幼稚園児	■ 従業員 [職業] 建築家
〔年齢〕34 歳 〔居住数〕5 年 〔趣味〕裁縫、料理 〔出身〕岡崎市 〔求める環境〕子育てしやすい環境	〔年齢〕21 歳 〔居住数〕21 年 〔趣味〕ピアノ、読書 〔出身〕豊田市 〔求める環境〕自然を感じられる環境	〔年齢〕72 歳 〔居住数〕46 年 〔趣味〕孫との買い物 〔出身〕岡崎市 〔求める環境〕余生を楽しめる環境	〔年齢〕24 歳 〔居住数〕24 年 〔趣味〕城めぐり 〔出身〕名古屋市 〔求める環境〕文化を味わえる環境	〔年齢〕5 歳 〔居住数〕5 年 〔趣味〕野球、けん玉 〔出身〕岡崎市 〔求める環境〕友達と遊べる環境	〔年齢〕40 歳 〔居住数〕14 年 〔趣味〕盆栽、旅行 〔出身〕岡崎市 〔求める環境〕作業できる環境
A: 中央の道は光が通り季節や時間によって見え方が変わってくる	B: 部戸には商品などが置かれレンタル比の増加や光や風が通る				C: 縁側や茶室が入り込んでおり人が何度も訪れ文化を体験する

6. 空間構成 - 茶室の挿入による新たな木造としてのあり方と形 -

